

# 都市戦略部 マネジメント方針

都市戦略部では市長との政策協議のもと、次のとおり基本方針・組織目標・行動目標を定めました。この方針に基づき目標の達成に向け着実に取り組みます。

令和5年4月1日

都市戦略部長  
山本 誠 一



## 【基本方針】

子どもから高齢者まで全ての市民が安全・安心で豊かな生活により、住み続けたいと思える「みんなが輝く全国に誇れるふくい」の実現に積極的に取り組みます。

まず、いよいよ1年後となった北陸新幹線福井開業に向け、市民と来街者などの交流促進やおもてなしのため福井駅周辺や市街地再開発などの整備を確実に進めます。また、新幹線開業効果を最大限に高めるため、官民連携した県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいあふれるまちづくりを積極的に進めます。

次に、急速に進む人口減少と少子・高齢社会の中、市街地や農山漁村などの地域の特色を活かした土地利用の適正化を図り、持続可能なまちづくりを進めます。

また、ハピラインの開業を踏まえた鉄道やバス事業者との連携により、地域をつなぐ誰もが利用しやすい「全域交通ネットワーク」づくりを進めます。

さらに、交通事故のない社会の実現を目指して、子どもや高齢者をはじめ誰もが安全で安心して暮らせるよう交通安全対策を進めます。

そして、デジタルの活用により多様な幸せを享受できる社会の実現に向け、暮らしや行政等のDXを推進し、市民サービスの向上により豊かで快適に暮らせるまちづくりを進めます。



## 【組織目標】

- I. 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺の取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます
- II. 適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます
- III. 地域をつなぐ誰もが利用しやすい「全域交通ネットワーク」の構築を進めます
- IV. 誰もが安全で安心して暮らすために交通安全対策を進めます
- V. デジタルの活用により市民サービスの向上を図るため各種施策を進めます

**【行動目標】**





**組織目標 I 北陸新幹線福井開業に向けて、福井駅周辺の取組を確実に進め、県都の玄関口にふさわしい魅力と賑わいのあるまちづくりを進めます**

行動目標	SDGs 指標
<p><b>1 民間主体のまちづくりの推進</b></p> <p>福井駅周辺を魅力と賑わいのある市街地とするため、民間が主体となった再開発事業への支援を行い、商業、文化、医療、居住等の複合的な都市機能の充実を図ります。</p> <p>新幹線開業後のまちづくりを見据えて、複数の再開発事業を確実に進めるため、事業者間の連携強化を図るとともに地元の理解と機運醸成に努めます。</p> <p>また、県都グランドデザイン（※1）に掲げる2040年の将来像実現に向けて、民間が主体となって取り組むまちづくりを支援します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>民間主体によるまちづくりへの支援件数 : 3件                      再開発事業等連絡調整会議の開催 : 2回以上                      県都まちなか再生ファンド(※2)による支援件数: 20件以上</p> </div> <p>※1 県都グランドデザイン                      商工会議所、県、市等で構成する「県都にぎわい創生協議会」において、まちなかに持続的な賑わいを生み出し、郊外にも波及させていくことを目的に、令和4年10月に策定した県都の将来像を構想するまちづくりの指針</p> <p>※2 県都まちなか再生ファンド                      県都グランドデザインに基づき、中央1・3丁目、駅前電車通り南側、新栄、愛宕坂エリアを対象に建物の建替やリノベーション等を促進するために官民が連携して創設した支援制度</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>福井駅前電車通り北地区A街区市街地再開発事業 完成イメージ図</p>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 20px;">  </div> <div>  </div> </div>

行動目標	SDGs 指標
<p><b>2 中心市街地の賑わい創出</b> 賑わいと交流の拠点であるハピリンを中心とした様々なイベントを開催し、観光交流センター等の周辺施設や関連団体と連携して中心市街地全体で歩行者の回遊性を高め、賑わいを創出します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>⑥ ハピリン入込客数(※1)： 225 万人(4 年度) → 270 万人(5 年度) ハピリン来場者数(※2)： 42 万人(4 年度) → 48 万人(5 年度)</p> <p>⑤ まちなか歩行者・自転車通行量(中央1丁目) ： 29,357 人(4 年度) → 36,000 人(5 年度) ハピリンと近隣商業施設との連携イベントの開催 : 4 件</p> </div> <p>※1 ハピリン入込客数 ハピリン内全施設への入込客数の合計</p> <p>※2 ハピリン来場者数 福福館、セーレンプラネット、ハピテラス及びハピリンホールの来場者数の合計</p>	
<p><b>3 新たなまちの魅力と回遊性の向上</b> 福井城址周辺の道路整備を計画的に行い、福井城址から養浩館へ快適に歩ける道路空間を形成することにより回遊性を高めます。 北陸新幹線福井開業に向けて、多言語化への対応等、多様な方にわかりやすい案内とするため公共サインを更新します。 また、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携し、圏域内における魅力ある自然、歴史、文化などの地域資源のPRや体験イベントを開催します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>福井城址周辺道路整備の推進 ： 市道 1-359 号線(城址東側お堀沿い道路)歩道整備設計 L=140m 公共サインの更新 : 48 カ所 中心拠点(※1)の賑わい創出イベント実施 : 3 月 福井駅東口周辺の恐竜モニュメント等整備</p> </div> <p>※1 中心拠点 高次の都市機能の集積・強化を図る福井駅周辺エリア</p>	

行動目標	SDGs 指標
<p><b>4 県都にふさわしい良好な景観形成</b></p> <p>県都にふさわしい美しい街並みをつくるため、民間が行う良好な景観に配慮した建築物等の更新やまちの魅力向上に資する事業を支援します。</p> <p>また、福井らしい景観をつくり・育てるために、ふくい嶺北連携中枢都市圏の各市町と連携した広域的な景観の形成を進めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>景観まちづくり事業景観形成支援 : 5 件            広域景観形成のPR動画作成(北陸新幹線沿線)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div>
<p><b>5 北陸新幹線の建設促進</b></p> <p>いよいよ北陸新幹線福井開業を迎えることから、全ての市民が開業効果を最大限実感できるよう年間を通してイベント等を実施し、開業に向けた機運醸成を図ります。</p> <p>また、10月に開業する福井市観光交流センターも活用しながら、全国からの来訪者へ福井の魅力を発信します。</p> <p>敦賀・大阪間については、1日も早い認可・着工と早期全線開業を実現するため、県及び関係機関と連携し建設を促進します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p>総   北陸新幹線建設促進協議会等の開催数 : 5 回            福井開業の機運醸成イベント等の回数 : 20 回</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>福井市観光交流センター 屋内広場</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div>

**組織目標Ⅱ 適正な土地利用の誘導と快適な生活環境の維持に努め、持続可能なまちづくりを進めます**

行動目標	SDGs 指標
<p><b>6 適正な土地利用の推進</b></p> <p>危険な盛土等を規制し災害を防止するため、宅地造成及び特定盛土等規制法（※1）に伴う規制区域指定のための基礎調査を実施します。</p> <p>また、福井市立地適正化計画において、居住誘導区域内の防災対策を位置付ける防災指針を定めるため、災害リスクの分析・課題の抽出を行います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>盛土規制法に伴う規制区域指定のための基礎調査の完了</p> </div> <p>※1 宅地造成及び特定盛土等規制法</p> <p>従来の「宅地造成等規制法」を法律名・目的も含めて抜本的に改正して、「宅地造成及び特定盛土等規制法」（通称「盛土規制法」）とし、宅地、農地、森林等の土地の用途にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制することとした。</p>	 
<p><b>7 街路整備の推進</b></p> <p>まちの骨格となる幹線道路について、計画的に整備を進めます。</p> <p>丸山上北野線は、道路用地の一部を北四ツ居町土地区画整理事業において確保しており、交通の円滑化及び通学路における安全確保を図るため、市街化区域内の道路整備を行います。</p> <p>また、並行在来線新駅設置の提言（※1）を踏まえ、鉄道と高木灯明寺線の交差点についてハピラインふくい及び県と協議を行います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>丸山上北野線（市街化区域内）における用地測量の完了                      新駅設置に伴う道路等検討会議の開催 : 3回</p> </div> <p>※1 並行在来線新駅設置の提言</p> <p>「福井・森田駅間」新駅設置箇所についての提言書（令和5年1月）において、高木灯明寺線の整備に向けた検討を先行して進めることとしている。</p>	 



組織目標Ⅲ 地域をつなぐ誰もが利用しやすい「全域交通ネットワーク」の構築を進めます

行動目標

SDGs 指標

8 並行在来線の利用促進

令和6年春のハピライン（※1）開業に向け、駅及びその周辺でのイベント開催や様々な広報媒体を利用した情報発信を行い、機運醸成や市民の関心を高め利用促進を図ります。



（仮称）ハピラインファンクラブ会員数	： 300名以上（※2）
ハピライン開業の機運醸成等イベントの開催数	： 20回

※1 ハピライン



北陸新幹線金沢・敦賀開業に伴い、JR西日本から移管される北陸本線（敦賀駅～大聖寺駅間）の運行を担うために設立された、第三セクター（株）ハピラインふくい



※2 （仮称）ハピラインファンクラブ

令和5年10月に（株）ハピラインふくいのファンクラブを設置し、県民のマイルール意識の醸成と利用促進を図る。



森田駅の空きスペースを活用したイベントの様子

行動目標	SDGs 指標
<p><b>9 二次交通の充実と利用促進</b> <b>ゼロカーボン</b></p> <p>公共交通相互のモビリティネットワークを充実し、スムーズに目的地に移動できる仕組みを構築するため、利便性の向上を図るとともに、地域鉄道及び路線バスが安定運行を継続するための支援を行います。</p> <p>また、北陸新幹線福井開業に向け、ハピラインを含めた鉄道・バスが連携した企画、まちなかを走る「すまいるバス」のEV(電気自動車)化など、人と環境にやさしい公共交通の利用促進に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>② 公共交通機関(※1)の乗車人数 : 819万人(4年度見込) → 840万人(5年度)</p> </div> <p>※1 公共交通機関 えちぜん鉄道、福井鉄道、路線バス(地域バス、地域コミュニティバスを含む)を対象とする。</p>	
<p><b>10 ICTを活用した交通利便性の向上</b> <b>DX</b></p> <p>市民や観光客が公共交通を利用しやすい環境づくりのため、MaaS(※1)の本格導入や路線バスへの交通系ICカードの導入支援など、ICTを活用した利便性の向上に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ふくいMaaSアプリの本格導入</p> <p>③ 公共交通のキャッシュレス決済比率(※2) : 22.8%(4年度) → 25.0%(5年度)</p> </div> <p>※1 MaaS Mobility as a Service の略。目的地までの移動について、複数の交通機関の中から各個人に最適な経路や移動手段を組み合わせ、一括に提供するサービスのこと。</p> <p>※2 公共交通のキャッシュレス決済比率 えちぜん鉄道、福井鉄道の運輸収入におけるキャッシュレス決済額の割合。</p>	

行動目標	SDGs 指標
<p><b>1 1 地域拠点の機能充実と地域内移動手段の確保</b></p> <p>公共交通機関の待合環境の向上や案内サインの整備など、地域拠点（※1）の機能充実を図ります。</p> <p>また、地域拠点に結節するフィーダー交通（※2）について、地域バスや地域コミュニティバス、フルデマンドタクシー（※3）の運行など、地域特性に応じた移動手段の確保に努めます。</p> <div data-bbox="172 663 1123 779" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>④ フィーダー交通の乗車人数 ： 13.0 万人（4 年度見込） →15.3 万人（5 年度）</p> </div> <p>※1 地域拠点 地域住民の身近な生活空間の中心であり、日常生活に必要なサービス等が集積した地域の生活拠点</p> <p>※2 フィーダー交通 フィーダーとは「枝」という意味で、交通分野では「幹線」に対する「支線」を指す。本市では、中心市街地と地域拠点を結ぶ移動手段である「公共交通幹線軸」に対し、地域拠点とその周辺地域を結ぶ地域内交通を「フィーダー交通」としている。</p> <p>※3 フルデマンドタクシー 路線バスの維持が困難な地域の公共交通として、定員 10 名以下のタクシー車両を活用し、時刻表によらず、利用者の予約に応じて運行するもの。</p>	<div data-bbox="1230 412 1370 546" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  </div> <div data-bbox="1230 577 1370 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div>



組織目標Ⅳ 誰もが安全で安心して暮らすために交通安全対策を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p><b>1 2 自転車の利用促進と利便性の向上</b> <b>DX</b> <b>ゼロカーボン</b></p> <p>市民や観光客の手軽な移動手段のシェアサイクル「新ふくチャリ」(※1)を活用し、観光施設・散策ルート等の情報を提供するとともに、各種イベントと連携し、利用拡大を図ります。</p> <p>また、公共交通機関の結節点となる福井駅の南側に、自転車駐車を整備し、自転車利用者の利便性を高めます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ふくチャリのポート増設 : 1カ所(観光交流センター) 10月</p> <p>ふくチャリの利用回数 : 6,729回(4年度)→11,000回(5年度)</p> </div> <p>※1 シェアサイクル「新ふくチャリ」          令和5年3月1日よりスマホアプリを基本とした、キャッシュレス決済、予約、非接触型の貸出・返却システムを導入          現在の設置数 サイクルポート10カ所、電動自転車60台</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>▲ウェルカムセンターのサイクルポート</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>▲スマートフォンを利用した貸出を行う</p> </div> </div>	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="margin-bottom: 20px;">  <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div>  <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> </div> </div>

行動目標

SDGs 指標

1.3 高齢者と子どもの事故防止

交通事故による「死者数・重傷者数」(※1)を無くし、事故の無い安全で安心なまちをつくるため、高齢者や子どもを対象に交通安全教育を行います。

高齢者が占める交通事故の割合は高く、外出時の反射材の着用や自転車に乗る際のルールやマナーなど事故を防止するための、広報・啓発に取り組みます。

高齢運転者が加害者にならないよう、警察と連携し、運転免許証を自主的に返納しやすい環境づくりに努めます。



- ③9 交通事故死者数 : 1人以下(5年)
- ③40 交通事故重傷者数 : 40人以下(5年)
- 運転免許証自主返納(※2) 合同窓口の開設 : 4回以上(5年度)
- 中学生を対象とした自転車ルール・マナーの啓発活動 : 2校

※1 死者数・重傷者数

令和7年までに達成すべき基本目標値(第11次福井市交通安全計画)

- ・死者数 7人以下
- ・重傷者数 40人以下



▲児童を対象にした交通安全教室の様子

※2 運転免許証自主返納

○福井市内の状況



	R1	R2	R3	R4
高齢者免許自主返納者数	990	868	792	720
人身事故件数	526	380	398	369
うち高齢運転者が第1当事者の事故件数	133	101	106	77

第1当事者: 事故の過失がより重い者

《高齢運転者による事故が減少傾向にある主な要因》

- ・安全運転サポート車(ペダル踏み間違い急発進抑制装置、衝突被害軽減ブレーキ等)の普及
- ・ドライバーの交通安全意識の向上

組織目標Ⅴ デジタルの活用により市民サービスの向上を図るため各種施策を進めます

行動目標	SDGs 指標
<p><b>14 デジタル化による市民サービスの向上</b> <b>DX</b></p> <p>行政手続のオンライン化を推進し、市民サービスの向上を図るとともに業務の効率化に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>電子申請可能手続数（※1）： 40 手続（4 年度） → 43 手続（5 年度）</p> </div> <p>※1 国の「デジタル社会の実現に向けた重点計画」に示された地方公共団体（市）が優先的にオンライン化を推進すべき手続 52 のうち、本市において可能となった手続数。</p>	
<p><b>15 情報システムの標準化・共通化や新技術の業務への活用</b> <b>DX</b></p> <p>令和7年度末までに20の基幹系業務システムを国の標準準拠システムへ円滑に移行するため、前年度作成した移行計画の詳細化などに取り組みます。 また、RPA（※1）やAI（※2）議事録作成支援システムの導入業務を拡大し、業務の効率化に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>標準準拠システムへの移行に関する進捗率（※3） ： 35.3%（4 年度） → 47.1%（5 年度）</p> <p>RPAの導入による業務削減時間：2,103 時間（4 年度） → 2,800 時間（5 年度）</p> <p>AI議事録作成支援システムの導入による業務削減時間：900 時間</p> </div> <p>※1 RPAとは、Robotic Process Automationの略称。 人間が行う定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットが代替して自動化するもの。</p> <p>※2 AIとは、Artificial Intelligenceの略称。 人工的にコンピューター上などで人間と同様の知能を実現させようという試み、あるいはそのための一連の基礎技術。</p> <p>※3 進捗率 完了済作業項目数 / 17 × 100（作業項目：国が作成した「自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書」内で示された17項目をいう。）</p>	
<p><b>16 DX推進のためのデジタル人材を育成する研修の実施</b> <b>DX</b></p> <p>DXを推進するため、全庁的な機運の醸成とともにデジタル人材の育成に向けて、職員の役割に応じた研修の実施に取り組みます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>デジタル人材育成のための研修（※1）回数 ： 21 回（4 年度） → 22 回（5 年度）</p> </div> <p>※1 実施する主な研修 DX推進リーダー育成研修、EBPM・データ利活用理解促進研修、エクセル活用研修など。</p>	